日経平均株価
６万９０３０円９２銭
▼１１円１９銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
４１０４．８１
▲１３．３５（前日比）

株式市場新聞
www.marketpress.jp
2026
10/12
月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒541-0058
大阪市中央区南久宝寺町３丁目２-７
TEL 06-6105-1904

AI半導体関連逆襲へ

これからの活躍期待銘柄は？

７月２９日に６万４４８円９０銭まで急落していた日経平均は６万５０００円を中心としたもみ合いを経て１０月に入ると７万円まで急速に戻してきた。この急反騰を牽引しているのは急落時の悪役となっていたＡＩ半導体関連銘柄。ＡＩ向けサーバーの過剰投資や急激な進化によるＡＩ脅威論が台頭していたが、懸念を払拭するようにＡＩ普及に絡む半導体や周辺企業の受注拡大には衰えは見られない。第２四半期決算の発表が迫る中で注目銘柄を再点検したい。

底値から立ち上りで注目

９月下旬から１０月にかけての反騰過程では、ＡＩ半導体関連銘柄全てが戻しているわけではない。６月の日経平均最高値更新時の牽引役だった**キオクシアホールディングス**（２８５Ａ）や**太陽誘電**（６９７５）の株価は低迷したままで、その半面で半導体検査装置の世界的企業である**アドバンテスト**（６８５７）は再び最高値を更新し、同じく検査装置の**レーザーテック**（６９２０）も急速な戻りを演じている。セラミックコンデンサーでは太陽誘電と同業の**村田製作所**（６９７６）のパフォーマンスが良く、今回の反騰過程では、世界的に高シェアもしくは、６月の最高値更新時には日の目を浴びなかった銘柄が物色される傾向が強いようだ。

そこで今後、底値からの立ち上がりで注目されるのは**東京応化工業**（４１８６）や**ミネベアミツミ**（６４７９）、**日本特殊陶業**（５３３４）など。東京応化はフォトレジストで世界トップクラスで同社なくては高性能半導体の開発は困難。ミネベアミツミはデータセンター向け保護モジュール、日本特殊陶業は半導体向け静電保護チャックが伸びており、自動車部品メーカーからの脱却を図るうえで今後の成長が期待される。半導体シリコンウェハーで世界一を誇る**信越化学工業**（４０６３）も上振れ期待が高い。

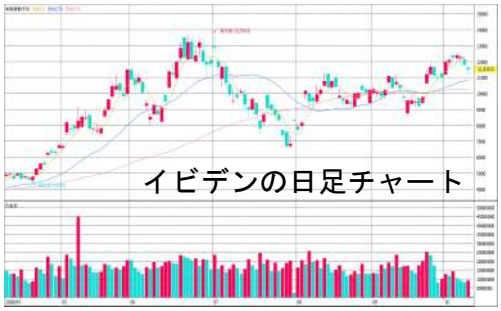
受注拡大は続く

日経平均の日足チャート

9月第4週の動意銘柄

イビデンが続急伸

エヌビディアCEO来日時報道



連休明け24日、**イビデン**（4062）が続急伸。7月にエヌビディアのファンCEOが来日した際の内容を記事にした週刊誌報道を材料視した。日本のサプライヤー企業トップとの親睦会を開催したが、イビデンの河島社長とは個別で会談、その際に「僕たちはイビデンに頼るしかないんだ。だから、どうかしっかりやってほしい」とのファンCEOの発言が取り上げられている。

住友電工は光海底ケーブル

住友電気工業（5802）が4日続伸。Meta Platforms, Inc.と**日本電気**（6701）とで世界初の商用ペタビット級光海底ケーブルシステム「Petal」（ペタル）構築へ協業すると発表した。米国とフランスを結ぶ総延長約7000kmにおよぶ大西洋横断光海底ケーブルシステムで2029年の運用開始を予定している。

アドクリ最終赤字へ修正

アドバンスクリエイト（8798）が急反落。26年9月期の業績予想について、連結最終損益で4億5000万円の黒字から3億9100万円の赤字（前期11億8300万円の赤字）へ下方修正した。完全子会社の保険市場で過年度の一部の広告取引、ソフトウェアの資産計上などで不適切な会計処理が行われていた疑義が発覚し、特別損失に計上する。

銀行株買い進まれる

金利上昇メリットを再評価

週末25日、**三菱UFJフィナンシャル・グループ**（8306）や**三井住友フィナンシャルグループ**（8316）などメガバンクに加えて**山形銀行**（8344）など地銀株も買い進まれた。足元の米10債利回りは5・1%台後半と2007年以来の水準となり、国内の10年債利回りも3%台へ上昇。日米とも追加利上げに当局者が言及していることから金利上昇メリットが再び評価された。

データセク大口受注入金

データセクション（3905）が続騰。10日に公表した大口受注について、契約通り初回入金が行われ、受注の効力が発生したと発表した初回入金額はデポジット1億3140万ドルのうち9855万ドルで、残額3285万ドルは30日以内に入金予定。大口受注の大半が入金されたことから、収益への貢献期待がさらに高まった。

小林製薬は非公開検討

小林製薬（4967）がストップ高。株式の非公開化を検討していると伝わった。日本産業推進機構グループと欧州系投資ファンドのCVCキャピタルが買収を提案、会社側は「共同提案を受けていることは事実」としており、買収プレミアムを期待した買いを集めた。

正直じいさんの株で大判小判

前週の東京市場は4週続伸。日経平均は前の週から721円上昇しています。米9月雇用統計の伸びが鈍化し早期利上げ観測が後退、米国株市場でハイテク株が買われエヌビディアが最高値を更新したこと幅に上昇し、がありましチの上昇へ体関連を中なりました0円超下落では2ケタ値の堅さが意識

今週は消費者済指標の発表がMCが決算発表奨銘柄について手持ちを整おり、長期金利の動きを確認しながら、AI半導体に加え、サイバーセキュリティ関連にもチャンスを探る考えです。**花咲 翁**

AI半導体とキュリティ関連も

理して物価をはじめ米国で経多く、ASMLとTSを予定しています。推はいったん損益を確定した。中盤以降は急ピッの警戒感からAI半導心に利益確定の流れにが、週末は朝方に80したところから大引けの下落に引き戻し、下されています。

公開価格59%上回る

レイヤードの初値

レイヤード（634A）が東証スタンダード市場へ新規上場、公開価格1400円を59・3%上回る2230円で初値をつけた。医療機関向けDX支援プロダクトと広告配信。

9月第5週の動意銘柄

ニデックがストップ安

岸田社長の解任伝わる

週明け28日、**ニデック**（6594）がストップ安。臨時取締役会で岸田社長の解任を決議していたと伝わった。不正会計を受けて1兆円規模の減損損失を計上することが判明、経営責任を問い解任に踏み切ったとしているが、突然のトップ解任に改めて不透明感が強まった。会社側は「役員変更と大規模な減損処理を検討をしているのは事実」と解任の可能性を否定しなかった。

オケストラ優待拡充増配

Orchestra Holdings（6533）がストップ高。株主優待制度の拡充と増配を発表した。優待について200株以上を1年以上継続保有する株主に1万5000円分のデジタルギフトを贈呈していたが、保有期間にかかわらず200株以上保有する株主を対象とし、上場10周年を記念して26年12月末200株以上保有株主にさらに1万円分のデジタルギフトを贈呈する。年間配当は30円から50円に引き上げる。

ヒユウガプラMBO

HYUGA PRIMARY CARE（7133）がストップ高。日本成長投資アライアンス系ファンドのJG44がMBOの一環として、非公開化を目指しTOBを実施すると発表。TOB価格2110円にサヤ寄せした。

メディシノバ臨床優位なく

29日、**メディシノバ・インク**（4875）がストップ安。MN－001の2型糖尿病に起因する高中性脂肪血症及び脂肪肝疾患に関するフェーズ2臨床試験のトップライン結果で、24週時点の血清中性脂肪、肝脂肪量の平均低下量はプラセボ群を上回ったが、統計的には優位でなく、平均体重減少量も統計的に優位でなかった。

ハピネット最高値

大幅上方修正で55%増益

ハピネット（７５５２）が急伸、上場来高値を更新した。２７年３月期の業績予想について、第２四半期累計連結売上高で２０００億円から２３００億円（前年同期比１７・１％増）へ、営業利益で７８億円から１３５億円（同５５・０％増）へ大幅に上方修正した。玩具事業でコンビニエンスストア向けくじ商品やトレーディングカードが好調で、アミューズメント事業はカプセルトイの販売がヒット商品により大きく伸びている。

ネクソン権利落ちで処分売り

ネクソン（３６５９）が急落。超過資金解消に伴う特別配当４１５円を９月末に実施するが、今回の剰余金の配当は一時的な措置としており、権利落ちに伴う処分売りがかさんだ。普通配当は２Ｑ末、期末それぞれ３０円、年間配当は４７５円となり、前日終値ベースでの配当利回りは１５・５と高水準。

T&Gニーズ急伸新値

26年12月から株主優待導入

テイクアンドギヴ・ニーズ（４３３１）が急伸、年初来高値を更新した。株主優待制度の導入を発表、２６年１２月以降、毎年１２月末日に７００株以上保有の株主を対象に優待ポイント表に基づいてポイントを進呈。株主限定の特設ウェブサイト「テイクアンドギヴ・ニーズプレミアム優待倶楽部」で米やブランド牛などのこだわりグルメ、スイーツや飲料類、銘酒、電化製品などが選べる。

アクセルHD衛生不具合

アクセルスペースホールディングス（４０２Ａ）がストップ安。７月７日に打上げた小型衛星「ＧＲＵＳ―３」７機のうち４機で通信系統に不具合が確認され、サービス運用に支障が生じる見込みと発表した。通信系統内の電力増幅回路の不具合が原因とみられ、詳細の原因究明を進めている。

クオリプス初の移植

クオリプス（４８９４）がストップ高。再生医療等製品のｉＰＳ細胞由来心筋シート「リハート」について、保険収載後初となる移植が実施されたと発表した。大阪けいさつ病院で患者への移植が滞りなく完了したとしており、今後の移植拡大が期待された。

ニデック監査不表明

ニデック（６５９４）が急落。３０日取引終了後、２６年３月期決算は５６４６億円の赤字（前の期は８４７億円の黒字）となり、２７年３月期通期は１０００億円の黒字、年間配当予想未定としたが、ＰｗＣ Ｊａｐａｎ有限責任監査法人が６年３月期有価証券報告書の連結財務諸表と財務諸表について監査意見不表明としたことから不安が高まった。

PHCHDはTOB報道

PHCホールディングス（６５２３）が急伸。ブルームバーグが「医薬品卸大手の**東邦ホールディングス**（８１２９）が買収に向けて同社側と協議に入ったことが分かった」と報じた。事情に詳しい複数の関係者の話で、ＴＯＢによる全株取得をめざしており、買収額は２０００億円を超える見通しと伝えている。

七転び八起き

日マイクロが引続き強いデス

読者の皆様、一週間お疲れ様でした。

今週は日経平均が７万円を超えたところで６万５０００円前後でもみ合っていたときに拾った銘柄を整理して、ダブルインバースで保険をかけていましたけど、週末は前場段階で戻ると予想してこの保険を解約して整理した銘柄を多少戻しました。

英国のフィナンシャルタイムズ紙がオープンＡＩの年換算売上高が従来の見通しを下回ったと報道したことがＡＩ半導体売りに繋がったようですけど、その後にはアンソロピックなど競合との比較に伴う売上高の集計方法の違いによるもだった（細かいことは割愛シマス）ということで、オープンＡＩの成長に変化がなかったということでした。

そんなことでＡＩ半導体には買い戻しの動きになっています。７日に書きました**日本マイクロニクス**（６８７１）が引き続き強くて楽しみデス。

（若様）

AI半導体軒並み高

マイクロン好決算など支援

1日、アドバンテスト（6857）、東京エレクトロン（8035）、レーザーテック（6920）、SCREENホールディングス（7735）などAI半導体株が軒並み高。ニューヨーク市場の取引終了後にAIの新バージョンを発表したアルファベットや好決算を発表したマイクロンが時間外で上昇していることから、日本のAI半導体銘柄にも買い戻しの動きが加速した。

レゾナク大幅3日続伸

グリーンケミカル実証に供給

週末2日、レゾナック・ホールディングス（4004）が大幅に3日続伸。旭化成（3407）、日揮ホールディングス（1963）がNEDOグリーンイノベーション基金事業に採択され実施している「大規模アルカリ水電解水素製造システムの開発およびグリーンケミカルプラントの実証」プロジェクトで、グリーンアンモニアの供給事業者として協力すると発表した。火力発電所ではグリーンアンモニアが排煙脱硝用途に活用される予定で、福島県内の火力発電所に供給する。

SBGは追加出資

ソフトバンクグループ（9984）が大幅反落。OpenAIへの追加出資の最終分となる100億米ドル（約1兆5796億円）をソフトバンク・ビジョン・ファンド2を通じて実行したと発表した。持分比率は約13%となるが、投資負担増と短期的な利益確定売りが下落要因になった。

クスリのアオキ16%増益

クスリのアオキホールディングス（3549）が大幅続伸。27年5月期の第1四半期累計決算は、連結営業利益で前年同期比16・0%増の84億2400万円となった。大型店舗の出店によるフード拡充、生鮮食品の取扱いノウハウ向上を進めた。

10月第2週の動意銘柄

AI半導体関連続騰

SOX高とNVDA最高値

週明け5日、アドバンテスト（6857）や東京エレクトロン（8035）、レーザーテック（6920）、SCREENホールディングス（7735）、ディスコ（6146）などAI半導体関連株が先週末に引き続き軒並み買われた。2日のニューヨーク市場でSOX指数が2・40%上昇、エヌビディアも5月中旬以来となる最高値を更新したことから、日本の半導体銘柄にも出遅れ的な買いが入っている。

インフロニア希薄化

インフロニア・ホールディングス（5076）が続急落。4782万6100株の公募増資と717万3900株を上限とするオーバーアロットメントによる売出を発表したことで希薄化が懸念された。増資と売出で最大20%発行株が増加する。

ティアフォー急反発

ティアフォー（5093A）が急反発。経済産業省が公募する「補正グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金」に採択されたと発表した。自動運転技術を用いてサウジアラビアでモビリティサービスの社会実装を目指し、自動運転バスの実証を実施、人材育成も進める。

TDK磁気ヘッド買収競争

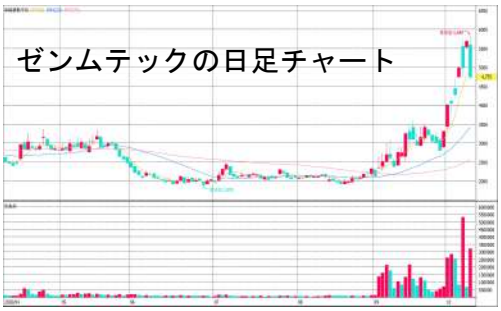
6日、TDK（6762）が急伸。ブルームバーグがハードディスク駆動装置（HDD）用磁気ヘッド事業を巡り、米シーゲイト・テクノロジー・ホールディングスと東芝が買収を競っていると報じた。東芝が春に同社との協議を開始し、シーゲイトが夏により高い買収案を提示した。買収額は数千億円に上る見込みとしている。

ipsは公募と売出

アイ・ピー・エス（4390）が急反落。1126万3500株の公募増資と18万9500株を上限とするオーバーアロットメントによる売出を実施すると発表したことで、希薄化が懸念された。発行済み株式数は最大約11%増加する。手取概算約55億円は国際海底ケーブル和歌山支線などの設備投資に充てる。

セキュリティ関連買い

サイバーテロ相次ぎ発生



6日、ZenmuTech（3838A）がストップ高になったほか、FFRI（3692）やトレンドマイクロ（4704）、デジタルアーツ（2326）などサイバーセキュリティー関連が買われた。大規模なサイバーテロが相次ぎ発生。「焼肉きんぐ」を運営する物語コーポレーション（3097）や大和証券などが不正アクセスを発表しており、IoTセキュリティ診断を拡充し対策が急務となっている。

ディスコが大幅反落

39%増収も利益確定売り

7日、ディスコ（6146）が3日ぶりに大幅反落。27年3月期の第2四半期の速報値で、個別売上高は11億8500万円（前年同期比38・9%増）となったが、大幅増収は想定されていたことから利益確定売りの動き。生成AI向けを中心に、精密加工装置、精密加工ツールともに出荷が高水準で推移した。

サイバセキュ一時S高

サイバーセキュリティクラウド（4493）が一時ストップ高。「緊急セキュリティ相談窓口」を開設したと発表した。情報漏えいやランサムウェア被害などサイバーインシデントの初動相談・調査を無償で実施するが、たブロードバンドセキュリティ（4398）もストップ高。

ノートは利食い急ぎ

ユーザー増加につながると期待された。note（5243）がストップ安。26年11月期第3四半期累計の連結決算は、営業利益8億4900万円（前年同期比6・7倍）で着地した。ただ、好業績は事前に観測されており、当面の出尽くし感から利食い急ぎの動きになった。

セキュリティ軒並S高

サーバー攻撃被害拡大止まず

8日、サイバーセキュリティクラウド（4493）やキュアヴェイル（3042）、ブロードバンドセキュリティなどサイバーセキュリティ関連が軒並みストップ高。ソフトバンク（9434）のシステム障害をはじめ、サイバー攻撃による被害拡大が止まず、買い気がさらに強まった。サイバーセキュリティー参入を発表したTWOSTONE&Sons（7352）もストップ高。

三協立山ストップ高

三協立山（5932）がストップ高。27年5月期の第1四半期決算は、連結営業利益で26億4100万円（前年同期11億6400万円）となった。アルミ地金市況に連動した価格改定、為替影響に加えて自動車分野を中心に物量が増加した。

ローツェがストップ高

4割増収7割増益へ増額

週末9日、ローツェ（6323）がストップ高。27年2月期の業績予想について、連結売上高で1590億2100万円から1800億700万円（前期比39・8%増）、営業利益で381億1200万円から530億7800万円（同70・4%増）へ上方修正した。旺盛な半導体需要が寄与し、期末一括配当も20円から28円（前期17円）へ引き上げた。

ファストリが急落

ファーストリテイリング（9983）が急落。27年8月期は連結営業利益で前年同期比15・5%増の8300億円を見込むがコンセンサスをやや下回った。機能性商品やトレンドを反映した商品がけん引している。

クボタやコマツ連想売り

クボタ（6326）が反落。米連邦取引委員会と米国農務省が農業機械業界の商慣行に関する共同調査を発表したことを受け、米国市場で農業機械株や米建機株が下落、同社株やコマツ（6301）にも連想売りが出た。

サンバイオ国内初の治療

サンバイオ（4592）がストップ高。北海道大学病院が交通事故の影響で半身まひとなった外傷性脳損傷の患者に再生医療薬「アクーゴ」による国内初の治療を実施したと伝わった。術後に改善が見られたとしている。

潮流

政策が動けば全てが動く

新高市内閣で成長軌道に転換へ

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール
１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第１回Ｓ１グランプリ」にて１万人超の参加者の中から優勝。２００２年にＮＨＫ番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では２０２４年３月の夕刊フジ主催の「株・１グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。

９月１７日に高市首相率いる第２次高市改造内閣が発足した。閣僚１９人のうち１０人が交代し、７人が初入閣した。今回の人事で特筆すべきは、当選回数や派閥の論理にとらわれず、高市首相自らが自民党議員へのアンケートを精査し、政策への情熱、専門知識、具体的な提案力、実行力を備えた人物を登用したことだ。

一般企業でいえば、年功序列ではなく能力と意欲を重視した人材登用であり、従来の政治慣行に一石を投じる試みといえる。高市首相が掲げる「決断と挑戦、実行の内閣」は、単なるスローガンではない。政策を検討するだけで終わらせず、予算措置や制度改革を通じて実行に移す姿勢を明確に示している。

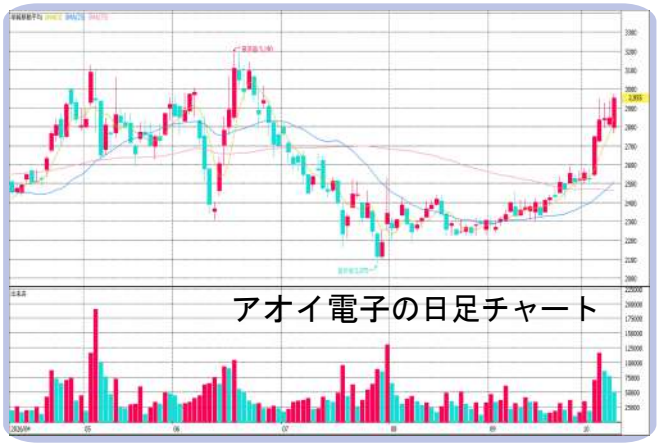
その柱が「責任ある積極財政」だ。日本の成長に不可欠な重要分野への投資について、従来の財政制約によるリミッターを外し、国が先頭に立って投資を牽引する。財政健全化を優先するあまり、将来の成長に必要な投資まで抑制してきた日本にとって、大きな政策転換である。

政府支出を単なる消費ではなく、将来の国力を高める成長投資と位置付けることが重要だ。ＡＩ、半導体、量子技術、造船、防衛、エネルギー、宇宙、先端素材などへの投資拡大は、企業の設備投資や研究開発を促し、民間資金を呼び込む。さらに電力、通信、建設、素材、製造装置、物流など幅広い産業へ需要が波及する。

国内に巨大なＡＩ・半導体産業エコシステムが形成されれば、新産業と雇用が生まれ、賃上げと消費拡大を通じて企業収益を押し上げる好循環も期待できる。重要なのは、各閣僚が従来の縦割り行政を排し、政策を具体的な成果に結び付けられるかだ。実行力を重視した人事だけに、その責任は重い。

日本株市場でも、ＡＩ・半導体、電力インフラ、防衛、造船、資源・エネルギー、建設関連などに恩恵が広がる可能性がある。金利上昇や物価、財政への信認には注意が必要だが、政策が企業業績に反映されれば、中長期的な株価の支えとなろう。新高市内閣の挑戦が国内投資と企業収益を押し上げ、日本経済を長年の低成長から成長軌道へ転換させることに期待したい。政策が動けば、企業が動く。企業が動けば、経済が動く。経済が動けば株価が動く。

潮流銘柄は**アオイ電子**（６８３２）、**内海造船**（７０１８）、**マーベラス**（７８４４）。



アオイ電子の日足チャート

実行力を重視した人事

アイランドリバーサル回避

下値堅いが日柄調整

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

先週の日経平均は前週末比約７２１円高となり４週連続上昇した。しかし、週初の発射台が高かったため、週足では４週ぶりに陰線となった。

週初は２日に発表された米国の９月雇用統計が前月から伸びが鈍化し市場予想を下回り、過去２カ月分も大幅に下方改定されたことを受けて早期利上げに対する警戒感が薄らぎニューヨーク市場が上昇。これを受けて日本株もＡＩ半導体関連株を中心に買われ大幅高となった。

一時は７万１０００円台に迫る動きとなったが、短期上昇の警戒感が出始め週末にかけて売りが膨らんだ。ＳＱ週によくあるコールと合わせて仕掛けを入れ、踏み上げが終われば大きく下落するパターンだった。

機関投資家の新規資金が流入

だが、いつもはＳＱ日に高値を付け「幻のＳＱ」となることが多かったが、今回のＳＱ値は６万８４６５円２３銭であり、そこから切り返している。

チャートでは上昇時に付けた３空日（６万８７４１円６９銭～６万９０５０円２３銭）を開けたまま下落の「アイランドリバーサル」になるところであったが、これを引けで回避し底堅さを感じた。

１０月に入り下期が始まり、機関投資家の新規資金が押し目買いを入れてきているようで、下値も堅そうである。しかし、週足のチャートでは戻り高値で十字線を付けており、上値の重さも感じられる。

今週は週初の１２日がスポーツの日の祝日のため、立ち合いは１３日からの４日間のみだが、短期上昇分の日柄調整が続く週になると思われる。下値は６万８０００円、上値は７万０５００円のレンジを想定している。（ハチロク）

日経平均の週足チャート

日経225先物の日足チャート

建物を再生し、
次世代につなぐ。

大阪城公園内にある「MIRAIZA OSAKA-JO」。
100年近い歳月を重ねた建物が
新たな複合施設へと生まれ変わりました。

大和ハウス工業は歴史的建造物の趣を生かすリノベーションを通じて、
賑わいと文化を次世代へ継承する取り組みをサポートしました。

そしてこれからも、不動産の再生と循環を通じて
持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

不動産の再生［ 買取・再販 ］ / 不動産の売却［ 売買・仲介 ］ / 修繕・改修［ 維持管理 ］

BIZ Livness

事業・商業施設の再生は ビズ リブネス

詳細はこちら

Daiwa House
大和ハウスグループ

大和ハウス工業株式会社〈不動産ストック事業〉
東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号 〒102-8112
Tel 03-5214-2424
www.daiwahouse.co.jp

ECO FIRST
エコ・ファースト企業
環境大臣認定
We Build ECO
Daiwa House Group

記者の視点

相場見通し

決算睨んだ個別物色

ASMLとTSMCの発表注視

先週の東京市場は日経平均が7万円を超える動きになったが、その日経平均終値は6万９０６５円２３銭に対して9日後はＦＴの報道がクラウド企業を通じた販売の売上高を含めていない内容だったことが伝わると、9日は後場から急速に戻す動きになった。

１０月のＳＱ値6万８４５０６）の第２四半期が発表されたが、１３日は**イオン**（８２６７）、１４日に**良品計画**（７４５３）、１５日に**東宝**（９６０２）、その他、小売りや外食の多くが第２四半期発表を控えている。その先には月末に接近してくると３月期企業の業績修正の発表も増えてくることから、指数よりも決算を睨んだ個別物色の色彩が強くなりそうだ。

ＳＭＬ、１５日にＴＳＭＣの決算が控えており、これらの内容で日本のＡＩ半導体関連企業の株価も大きく変動する可能性がある。国内では9日に**安川電機**（６

日経平均が７万円に乗せる過程ではＳＯＸ指数の急伸やエヌビディアの最高値更新が追い風になったが、８日にはオープンＡＩの年換算売上高が従来の見通しを下回ったとの英ＦＴ紙（フィナンシャルタイムズ）の報道で一転、ＡＩ関連売りになっていた。その

当面のスケジュール

・13日　９月国内企業物価指数
　ＣＥＡＴＥＣ2026（～16日幕張メッセ）
　米９月中古住宅販売件数
　ＩＭＦ世界経済見通し
・14日　９月マネーストック
　日銀「市場調節に関する意見交換会」開催
　米９月消費者物価
　欧決算：ＡＳＭＬホールディング
・15日　８月機械受注
　米９月小売売上高、米９月生産者物価
　米10月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
　G20財務大臣・中央銀行総裁会議（バンコク）
　アジア決算：ＴＳＭＣ
・16日　米９月鉱工業生産・設備稼働率
・19日　８月第三次産業活動指数
　独10月ＺＥＷ景況感指
　米10月ＮＡＨＢ住宅市場指数
・20日　９月首都圏新築マンション発売
　米９月住宅着工件数・建設許可件数
・21日　９月貿易収支
　９月訪日外客数
　米決算：ＩＢＭ、テスラ、テキサス・インスツルメンツ
・23日　９月消費者物価
　10月Ｓ＆Ｐグローバル日本製造業ＰＭＩ
　10月Ｓ＆Ｐグローバル・ユーロ圏製造業ＰＭＩ
　米10月Ｓ＆Ｐグローバル米国製造業ＰＭＩ

編集後記

アニメにも色んな題材あるもんで、風呂上がりにテレビをつけるとＦＸに没頭する女子大生の物語が放送されていた。小さい取引を繰り返し運用資金を５０万円まで増やした主人公だったが、ドル急反発を想定して買い下がったことが裏目に出る。損切りを躊躇して強制ロスカット寸前まで追い込まれ、タンスにある父親のへそくり３００万円をネコババして証拠金に入れるかどうか葛藤するところで終わった。結構リアルだったので、憶えていていれば続きを観たいと思う。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。